さいたま市立新開小学校（№６）

学校だより

（8,9月号）令和3年8月26日発行

http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/

【学校の教育目標】

◎ 夢（ゆめ）にむかって　ともに学びあう学校

・すすんで勉強する子

・自分からあいさつのできる子

・仲よくたすけあう子

・じょうぶな子

《今月の生活目標》　目標に向かって　協力しよう

温かい言葉

～アスリートの活躍とＳＮＳ～

校　長　　白石　徳一郎

晩夏の候、まだまだ厳しい残暑が続きますが、今日から２学期がスタートしました。子どもたちは、新型コロナウイルス感染防止のため、自宅で過ごすことが多かったことと思いますが、東京オリンピック・パラリンピックがテレビ各局で生中継され、ニュースでも繰り返し報道されて、普段見ない競技を目にする機会も多かったことと思います。新型コロナウイルスのために、直前まで開催方法が二転三転し、関係者の方々のご苦労は大変なものだったこととお察ししますが、いざ、始まってみると、メダルラッシュで明るいニュースが多く、日本全体が元気になったように感じました。多くの日本人の活躍が報道されるとともに、活躍の裏には、アスリートの方々が怪我や挫折など様々な困難に打ち克ち、何年も何年も努力を積み重ねて来られたことなどが紹介されました。

今回、東京オリンピック出場選手は全３３９種目で約１万１０００人とのことでした。メダルを取れる選手は一握りで、メダルを目指して夢に届かなかった選手が多数となります。勝利に喜ぶ選手のすぐ傍には、敗戦に肩を落とす選手がいて、負けた選手の悲しそうな表情も印象に残りました。頑張った全ての選手に心から拍手をお送りしたいと思います。

スマートフォンが普及し、テレビのニュースよりも先に速報を知ることができる便利な世の中になり、アスリートのちょっとした言動を非難する書き込みも簡単に見え、選手に対する誹謗中傷がニュースにもなりました。世の中が便利になりすぎたために、世の中全体が不寛容社会になり、様々なことに不満を覚える傾向があるように感じます。簡単に自分の意見を発信できる時代だがらこそ、私たちは一つの言葉の重みを自覚し、一人ひとりが発言、発信に責任をもち、人を傷つけない配慮が大切であるということも感じました。

さて、９月は「いじめ撲滅重点期間」です。日ごろの言葉づかいや、何気ない一言も、人を傷つけることがないようにお互いに気をつけていきたいものです。下の詩は子どもにもわかりやすい平易な言葉ですが、大切なことを教えてくれていると思います。代表委員会でも、いじめ撲滅スローガンを「考えよう！言葉の重みと言われた気持ち」として、いじめ撲滅に取り組みます。ご家庭でもぜひ、話題にしていただきますようお願いいたします。

９月２０日（月）は敬老の日です。コロナ禍で里帰りもなかなかできませんが、おじいちゃんおばあちゃんがいるお子様には、ぜひ、お電話で近況報告をしたり、はがきを書いたり、やさしい心を伝えてもらえたらと思います。新型コロナウイルスの感染状況がさらに厳しくなりましたので、皆様におかれましては、十分、お気をつけいただきますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、７月に嬉しいお電話をいただきました。聖徳保育園の保護者の方から、５,６年生の女の子が、倒れた自転車を起こすのを手伝ってくれて、とても感謝していますとのことでした。「小さな親切」ができる人は素晴らしいですね。２学期も温かい言葉や思いやりのある行動が広がるといいと思います。

「ひとつのことば」　北原　白秋

ひとつのことばで　けんかして
ひとつのことばで　なかなおり

ひとつのことばで　頭が下がり
ひとつのことばで　心が痛む

ひとつのことばで　楽しく笑い
ひとつのことばで　泣かされる

ひとつのことばで　それぞれに
ひとつの心を　持っている

きれいなことばは　きれいな心
やさしいことばは　やさしい心

ひとつのことばを　大切に
ひとつのことばを　美しく